



北方領土返還要求運動
シンボルマーク

北方領土の日

北方領土の返還を求める多くの国民から「北方領土の日」を設定することを強く要望されていた政府は、昭和56年1月6日の閣議で2月7日を「北方領土の日」と設定しました。この2月7日は、安政元年（1855年）伊豆下田において平和裡に「日魯通好条約」が締結された日です。この条約により、歴史上初めて日露両国の国境が択捉島と得撫島えとろふ うるつぶの間に定められ、択捉島から南が我が国の領土として国際的にも明確にされた日で、歴史的意義もあり、平和友好裡に領土返還を求める北方領土返還運動の趣旨にも最も合致した日です。

第34回北方領土の返還を求める都民大会 プログラム

日時 平成28年1月26日(火) 14時
場所 アジュール竹芝



洋上から見た国後島

主催 北方領土の返還を求める都民会議

次 第

- 開 会 の 辞
- 主 催 者 挨 拶
- 来 賓 挨 拶
- 東 京 都 議 会
- 内 閣 府 北 方 対 策 本 部
- 外 務 省
- 来 賓 紹 介
- 運 動 報 告
- 激 励 メ ッ セ ー ジ 披 露
- 大 会 宣 言
(休 憩)
- 大 会 講 演
北方領土問題対策協会 理事(非常勤) 渡邊 修介氏
- 北方領土青少年等現地視察 参加中学生発表
- 北方四島交流訪問事業 参加教諭発表
- 閉 会 の 辞

大 会 宣 言 (案)

戦後70年が経過した今日もなお、^{こんにち}齒舞群島、^{はぼまいぐんとう}色丹島、^{しこたんとう}国後島及び^{えとろふとう}択捉島の北方領土四島は、ロシアによる法的な根拠のない占拠の下に置かれており、元島民の「四島に帰りたい」という強い思いは未だ果たせずにいる。

昨年8月メドヴェージェフ首相は、日本政府の要請を無視して択捉島を訪問し、ロシアが北方領土の開発計画を引き続き進める姿勢を示した。一方、昨年11月にトルコで開かれたG20サミットでは、日露首脳会談が行われるなどプーチン大統領の訪日実現に向け一定の進展はみられたものの、北方領土の返還に向けた具体的な道のりは、依然不透明な状況である。

このような状況のなか、都民会議は、全国の道府県民会議とともに全国国民の悲願である北方領土の一日も早い返還を実現させるため、様々な返還運動を粘り強く展開している。

私たちは、我が国固有の領土である北方領土の返還が達成され、平和条約の締結が一日も早く実現し、両国間に真の友好関係が実現することを強く希望する。また、政府には強い意志と毅然たる姿勢で外交交渉を行うよう求めると同時に、政府の外交交渉を後押しするために、ぶれることなく一層の北方領土返還要求運動を進め、世論の高まりに貢献していくことをここに宣言する。

平成28年1月26日

北方領土の返還を求める都民大会参加者一同